

輸入粗飼料の情勢

全酪連購買部
購買推進課

北米コンテナ船フレート

先月既報の通り、WTSA（Westbound Transpacific Stabilization Agreement）加盟の船会社が、9月からGRI（General Rate Increase：基礎レート）の\$150値上げを決行しています。WTSA加盟以外の船会社（NON-WTSA）も様子をみて、1ヶ月以内に値上げをしてくると思われれます。各船会社とも引続き経営は厳しく、特にコンテナ部門は採算割れが続いているようです。そのため10月以降も、BAF（Bunker Adjustment Factor 燃料費調整係数：燃料価格変動に対して調整される割増運賃）とIFS（Inland Fuel Surcharge：内陸燃料割増運賃）の値上げが、今後予定されています。

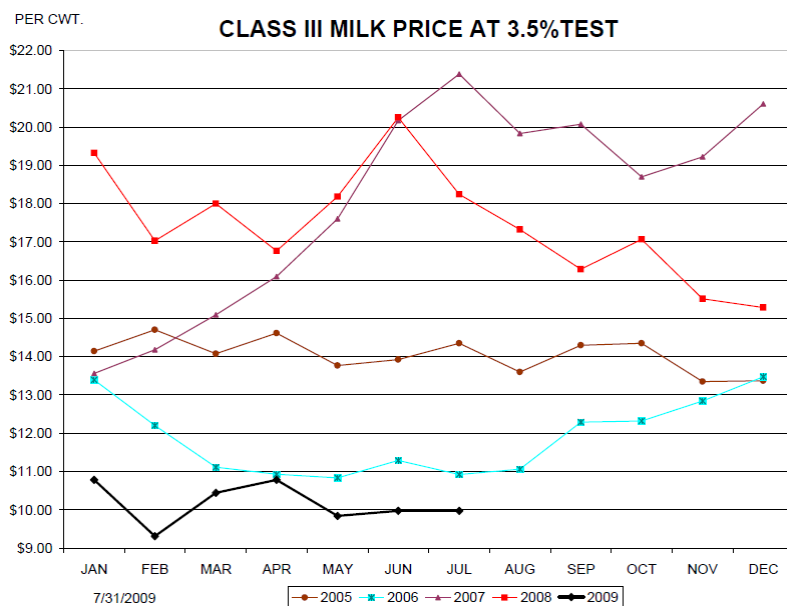
米国の牛群淘汰プログラム

米国の牛群淘汰プログラムとは、NMPF（National Milk Producers' Federation：全米生乳生産者連盟）が乳価の維持のために独自に運用するCWT（Cooperative Working Together：酪農協同事業）の事業の一つで、生乳生産安定法に基づき義務化されている生産者の拠出金（100ポンドあたり15セント）とは全く別の、政府の関与を受けていない事業です。このプログラムは、参加会員から生乳100ポンドあたり10セント（開始当初03年は5セント）を徴収し、これを財源としています。参加した酪農家は、NMPFによる年間生乳生産量を勘案した牛群の買取り価格の査定を受け、と畜処分にて牛を売った上に、補填金（補填金単価×年間生乳生産量）を受け取ります。

09年1回目は5-7月に施行されて、約101,000頭が淘汰対象となりました。09年2回目（7月24日締切）となる最新の牛群淘汰プログラムでは、全米294戸の酪農家の牛群が承認され、淘汰頭数は約87,000頭に及び、9月末までに施行される予定で、補填金単価は最大5.25ドル/100ポンド=約11円/kgの見込みです。この2回のプログラムにおいて、淘汰される牛群の70%以上が西部・南西部（=輸出向け乾牧草の主産地近く）の酪農家の牛群であることが特徴的です。

このような米国内の酪農情勢から、米国酪農家からの旺盛な乾牧草の買付は見ら

れず、国内需要に限ってみると輸出向け市場には望ましい状況が続いています。



諸外国状況

<中東 (UAE) >

アルファルファの大量成約に引続き、クレイングラス・ストロー類（主にライ・フェスク）も契約し始めています。いくつかのサプライヤーでは中東向けのプレス作業で忙しくなっているようです。長い目でみて、今後は日本向けの乾牧草の供給量確保が課題となりそうです。

<中国>

アルファルファは08年産の在庫整理が落ち着いてきた為、多少スローダウンしていますが、荷動きはますますの様子です。品質もプレミアム品の需要が増えてきているため、今後ますます日本向け市場との競合が強くなりそうです。

米国産アルファルファ輸出量 (MT) 1-12月・2009年は1-6月

	2007年	シェア	2008年	シェア	2009年	シェア
日本	490,106	66%	558,492	61%	371,741	48%
韓国	134,489	18%	159,352	17%	70,789	9%
UAE	27,946	4%	103,419	11%	265,677	34%
台湾	54,227	7%	51,248	6%	17,766	2%
中国	2,321	0%	19,348	2%	27,817	4%
ベトナム	1,117	0%	1,248	0%	646	0%
その他	38,299	5%	24,951	3%	18,286	2%
計	748,505	100%	918,058	100%	772,722	100%

ビートパルプ

<米国産>

収穫を目前に控えた産地では非常に湿気があり、かつ冷涼な天候が続いており、作柄への影響が懸念されていますが、収穫作業の開始は当初の予定通り9月1週目より行われる見込みです。世界第二の砂糖生産国であるインドのサトウキビの生産大幅減から、砂糖相場は世界的に引き締まっており、砂糖の生産を優先させるために、作柄不良の懸念にも関わらず予定通り操業を行う意向が強いようです。

<中国産>

韓国の最新輸入通関統計によると、7月のビートパルプ輸入数量は8,701トンで、内訳は約3,300トンがエジプト産で、残りが中国産です。中国産の08年産の産地在庫が減少し、供給余力が減ると同時に価格の上昇がみられ、韓国勢も中国産以外のビートパルプの輸入に目を向けており、エジプト産の増加はそのような背景と推測されます。情報によると、8-9月では引続きエジプト産のほか、ドイツ産および米国産をメインに30,000トン程度輸入される見込みで、中国産は限られたものになるとの見方が大きい模様です。

09年産については、25-30%程度の作付けが減少、加えて一部地域で旱魃の影響で単収の大幅減も予想されています。また、メラミン騒動も沈静化する中、中国国内の需要増加が一段と注目されており、生産減/内需増という構図が一層鮮明になっております。この傾向は日本、韓国に大きなインパクトを与えることは間違いなく、今後の動静に注意が必要です。

アルファルファヘイ

<ワシントン産>

1番刈と2番刈の荷動きはますますの様子です。特にプレミアム品の荷動きは順調で、茎細品を除いて、ほぼ完売の状況です。

3番刈の収穫は8月上旬から本格化し、現在ほぼ終了しているようです。若干の降雨被害や、湿気と昼夜の寒暖差による露のため色褪せ（ブリーチ）が発生し、プレミアム品の供給は厳しい見込みです。例年多くのサプライヤーは3番刈までに6-7割のプレミアム品の在庫が確保できていますが、3番刈の予想外の収穫結果に、在庫が5割に達していないサプライヤーが多い様子です。

4番刈の収穫は現在、南ベイスンで20%の刈取り・10%のベーリングが終了しています。北ベイスンでは刈取りが始まったばかりです。長期の予報では降雨の心配はなく、好天に恵まれそうです。

<オレゴン産>

オレゴン州クリスマスバレーでは、2番刈の刈取り開始が8月1週目で、現在ほぼ終了し、3番刈の育成中です。2番刈の品質については、刈取り中盤の8月中旬に降雨があり、全体の約40%程度が雨あたりとなっているようです。ただし、降雨によるダメージの割合は、刈取り時期に幅があり、圃場によってまちまちのようです。

オレゴン州クラマスフォールズでの2番刈は、刈取り序盤で降雨があり、全体の約30%程度が雨あたりとなっているようです。ただしこちらも、降雨によるダメージの割合は、圃場によってまちまちのようです。2番刈の刈取り時期については、降雨前に刈取りをした圃場と、降雨後天気の様子を見てから刈取りをした圃場とで差が出ており、また1番刈の刈取りのタイミングにも差があったことから、ようやく2番刈のベーリングを終えたところもあれば、すでに3番刈を始めているところもあるようです。

<ネバダ産>

ネバダ州では、2番刈は終了し、早い圃場では3番刈が始まっているようです。現地では、8月10日前後で降雨があり、雨あたり被害出ているようです。ただ、この降雨は局地的だったようで、被害にも差が出ているようです。雨の影響で1番刈の刈取りが遅かったため、全体的に例年よりも若干遅れ気味のスケジュールとなっています。

<カリフォルニア産>

インペリアルバレーでの収穫は、6番刈まで進んでいます。08年産の国内在庫が多いこととPNW産の割安感から引合いは閑散としているものの、韓国・UAE向けの船積みは順調で、産地価格も堅調となっています。

チモシー

<米国産>

コロンビアベースン、エレンズバーグともに1番刈の刈取りは全て終了しました。ハイグレード品（馬用・牛用プレミアム品）の引合いは強く、今後の供給不足が懸念され始めています。ハイグレード品の割合は30%以下の状況で、ほとんどがローグレード品以下の供給が中心となる見込みです。

2番刈はコロンビアベースンで20-30%、エレンズバーグで10-20%刈取りが終了しました。プレミアム品はほとんど取れておらず、1番刈と同様にローグレード品以下の供給が中心となる見込みです。

価格については、需要高と良品供給タイト感からハイグレード品は強含みとなっております。今後需要によっては更に値上げとなる可能性があります。

また各サプライヤーとも、荷動きが悪かった08年産は冬季屋内薫蒸料金を加算しませんでした。09年産では例年通り加算させる予定です。

<カナダ産>

8月上旬に降雨と、一部でひょう・あられが観測されました。この間の収穫・ベーリング作業は中断されました。8月中旬から作業が再開されて現在ベーリングは全て終了しており、サプライヤーの買付けも8月下旬から本格化しています。不安定な天候により、生産農家は全ての作業が終わってからはないと売りたいがらない傾向にあります。例年では買付けが終わっている時期ですが、作業の遅延とともにサプライヤーの買付け進捗も遅れが続いています。さらには断続的な天候不良により、国内需要も強まっており、輸出向け数量の減少が懸念されています。

スーダン

インペリアルバレーでの09年産作付け状況は、8/15時点のイーカレッジレポートによると前年対比42%の27,636エーカーと、更なる減少で推移しています。現在は2番刈の収穫が30-40%終了しています。8月に入り湿気の上昇とともに、茶葉まじりの茎太スーダンも増えてきています。

各サプライヤーとも、輸出向けの茎細品と色抜け品の良品確保が進まず、供給数量の不足が懸念されています。08年産の出荷が遅れている中小サプライヤーほど09年産の買付けも遅れているようで、慌てて買付けを始めるあまりに産地価格も大幅に上昇しています。



インペリアルバレー産スーダン2番刈圃場（奥は今年多くみられる休耕地）

北カリフォルニアでも09年産の作付けは、インペリアルバレーと同様に約50%

の大幅な作付減となっています。08年産の在庫はほとんどなく、09年産の船積みは8月後半から始まっています。プレミアム品も取れていますが、ローグレード品も少しずつ増えてきています。2番刈は1番刈の収穫遅れから、ほとんど輸出向けに出てこないと思われます。

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

産地では4番刈が始まったところです。3番刈の品質は気温が高めで湿度が感じられる天候になってきたため、ブリーチが見受けられるようになりましたが、例年よりも良品で、柔らかめが多い傾向です。インペリアルバレーでの作付面積は、8/15時点のエーカーレッジレポートによると前年対比89%の12,966エーカーとなっていますが、クレインの相場自体が生産農家にとっては安く厳しいため、4番刈移行の収穫をやめる圃場も増えてきているようです。

バミューダ

09年産はエーカーレッジレポートによると、8/15時点で前年対比94%の53,645エーカーとなっています。種取り後のハイ収穫はほとんど終了しました。品質については例年並みのようです。

ストロー類

09年産のストロー類の作付けは、前年対比でライグラス、フェスキューともに20%減少となっています。いずれも刈取りは終了しています。フェスキューは、刈取り後に多くの圃場で雨あたりとなりました。色は例年より薄めに仕上がり、降雨の痕跡である黄色い茎の混入も散見されます。一方ライグラスは、降雨の影響がほとんどなく、品質はますますです。

08年産の種子の在庫が過剰にあるため、生産農家は早くも10年産のストロー生産を減少させる意向を持っているため、今後の動向については注意が必要です。

豪州産オーツヘイ

<西豪州>

西豪州の播種は、例年に比べて2週間から1ヶ月遅れていましたが、7月に例年以上の降雨、8月に入っても順調な降雨に恵まれて、十分な水分により下草、茶葉の少ないきれいなオーツヘイが多く生育している状況です。播種が遅かったために収量は例年並みかそれ以下との見方でしたが、今後の天候次第では例年以上の収量も見込める状況になってきています。現時点での刈取りの開始は9月下旬ごろからと予想されています。

また米国同様、豪州国内においても乳価の下落により豪州酪農家からの旺盛な乾牧草の買付は見られず、ヴィクトリア州、NSW州の需要も大幅に落ち込み、国内向けの西豪州産のオーツハイが、輸出向け候補として多く出回る可能性も出てきています。



西豪州産オーツハイ圃場（8/31撮影） 南豪州産より遅い生育

<南豪州>

南豪州の播種は、全体的に例年より早めに行われました。これは、08年産に早刈りを行った圃場で良い結果が出たことに起因していると言われています。

早播きの圃場では、今後2週間以内に刈取りを開始することになりそうです。ここ3年は早刈り傾向だったこともあり、早播き遅播きに関わらず、刈取り期間は比較的短いものですが、今年はそれぞれに適切なタイミングでの刈取りになる見込みで、例年の刈取りのように、刈取り終了までに約1.5ヶ月間程度かかるものと思われま



南豪州産オーツハイ圃場（8/25撮影） 9月1週目に刈取り予定

以上